TV 報道検証【報道特集】　報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年 2 月 17 日

出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子、巡田忠彦(記者、防衛大学校を取材)

検証テーマ： 銃乱射事件、ロシア疑惑、小池都知事の築地訪問
【特集】オリンピックと南北関係、【特集】P3C 機長を目指した一般大学卒業生の５年間を追跡

報道トピック一覧

・平昌オリンピック、男子フィギュアスケート
・北日本と北陸で明日明け方に雪と風が強まる見込み、北海道では既に交通機関に影響
・メキシコ南部で M7.2、人的被害はなし
・アメリカフロリダ州の銃乱射事件で負傷した生徒らの入院する病院にトランプ大統領が訪問・面会
・ロシア疑惑
・棋士の藤井聡太氏が史上最年少の棋戦優勝で六段に昇段
・産業技術総合研究所の研究員が千葉県内の女性の家に侵入したとして逮捕
　闇サイトで知り合った無職男性と女性の部屋への侵入を計画
・小池都知事が築地を訪問、業界団体の代表らと会談
・東京消防庁、設立 70 年で展示会
・【特集】オリンピックと南北関係
・【特集】P3C 機長を目指した一般大学卒業生の５年間を追跡
　P3C のパイロットを目指す一般大学出身の男性１名・女性１名
　戦術航空士を目指す男性一般大学出身の男性１名
・平昌オリンピック(スポーツ報道)
・次回予告(児童養護施設の子供たち)

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・ロシア疑惑→結論：問題は見られず

ロシアが一昨年のアメリカ大統領選に介入したとされる問題について、司法省のモラー特別検察官はロシア人 13 人とロシア企業 3 社を起訴したと発表したこと、トランプ大統領は Twitter でトランプ陣営は何も悪いことはしていない共謀はないと反発していることが報じられた。この報道に当てられた時間は秒で、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

・築地市場→結論：問題は見られず

小池都知事が築地を訪れ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックで主要な道路となる環状二号線の整備予定地区を視察したこと、築地の業界団体代表らと会談し業界側からは引越し準備への都の協力や環状二号線の暫定道路などを早期に整備してほしいなどの要望が出されたことが報じられた。

小池百合子都知事の「とても具体的なご要望もいただけてますます開場が現実として近づいているな、という」というコメントと、築地市場協会の伊藤裕康会長の「一番注目したのは築地の問題ではですね、築地に市場を作るという考えはないということをはっきりと言われました。」というコメントが紹介された。

このトピックに当てられた時間は 67 秒で、ナレーションによる説明と築地市場協会会長のコメントがやや噛

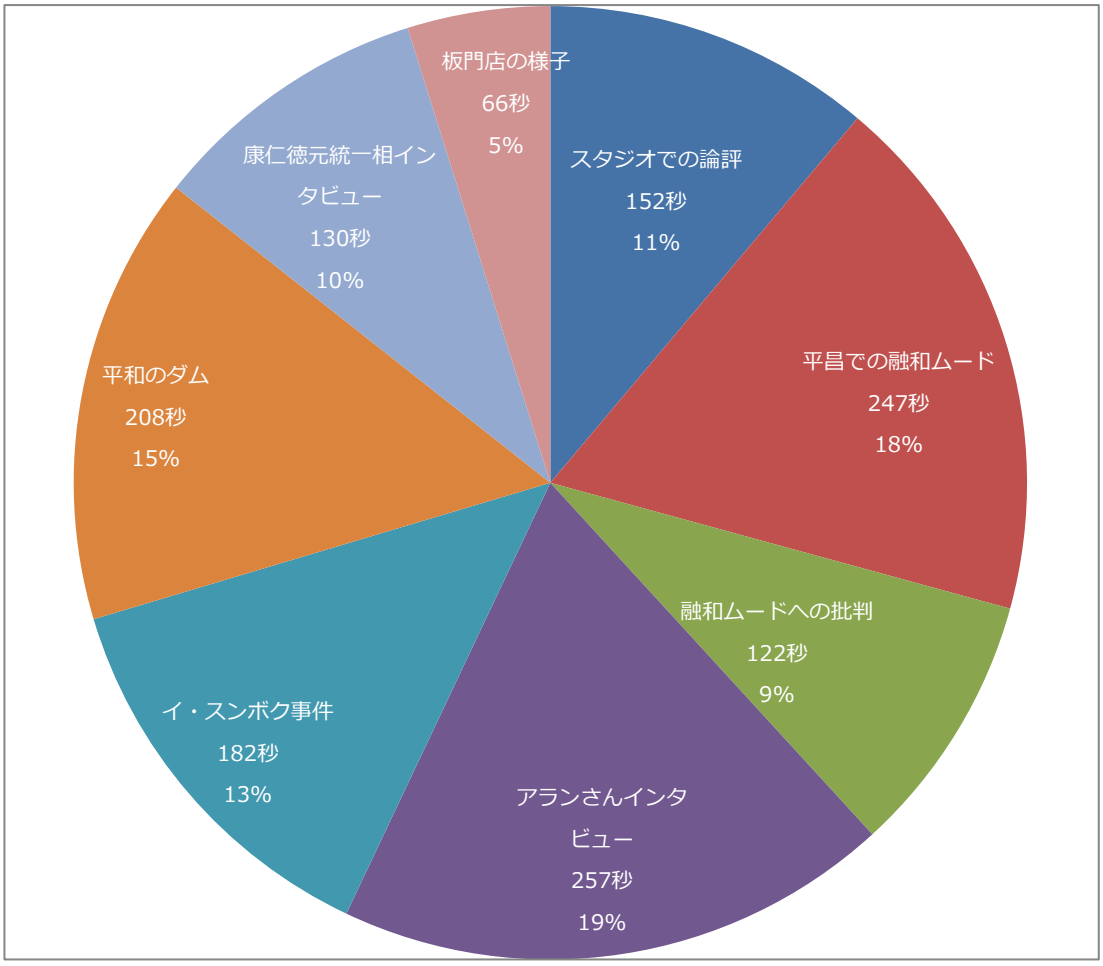
み合っていないような印象があったが、放送法第四条の見地からは特に問題は見られなかった。

・【特集】オリンピックと南北関係→結論：評価できる点・不十分な点の両方が見られた

このテーマについてはオープニングの際にスタジオで金平茂紀キャスターが「平昌オリンピックで様々な素晴らしいドラマが生まれています。そこから何を感じ取るかは勿論個々人の自由ですが、微笑み外交に惑わされるなとだけしか言えないとしたら、あまりにも一面的ではないかと思ってしまいます。オリンピックと南北朝鮮、特集でもお伝えします。」と紹介していた。

実際の特集では、オリンピックと朝鮮半島における南北関係について、スタジオでの論評、平昌での融和ムード、融和ムードへの批判、脱北者で元応援団員のアランさんへのインタビュー、1968 年 12 月に韓国に潜入した北朝鮮のゲリラによって少年が殺害された事件で以来反共・反北朝鮮の象徴となっているイ・スンボク事件、北朝鮮の水攻撃に備えるために作られた平和のダム、康仁徳元統一相インタビュー、板門店の様子についてスポットが当てられた。

このトピックに当てられた時間は 1364 秒で、それぞれのポイントについて焦点の当てられた時間配分及び比率は以下の通りであった。



融和ムードに対して批判的な人々として、かつて朝鮮人民軍の将校だった脱北者のチェ・ジョンフンさんが取り上げられ、日下部記者の「同じ民族としてね、一緒にオリンピックやるのはいいことじゃないですか？」という質問に対しての「話にならないです、本当に同じ民族だと思うのなら核やミサイルを放棄するべきです、なのに昨日は軍事パレードを行って今日は同じ民族だと言って一緒に競技をする、矛盾しています、話になりません。」

というコメントが紹介された。また、バスを借り切ってメインスタジアムの周辺で北朝鮮への抗議をしに行くという団体も取り上げられその構成員の「オリンピックが韓国ではなく北朝鮮で開かれるかのようになっています、それに反対するため我々は集まりました。」というコメントも紹介された。加えて、平昌では、若者たちが歌と踊りで北朝鮮の人たちに歓迎の意を示す一方で、道路を隔てた向かい側では反対派が軍歌を歌い気勢を上げ、北朝鮮の旗を燃やしていた様子が取り上げられた。

今回の女性応援団の韓国訪問を複雑な思いで受け止める脱北者としては平壌出身で 2008 年に北朝鮮から脱出した元応援団員で金日成主席や金正日総書記の前で踊りを披露したり外国公演やスポーツ大会応援にも参加したこともあるキム・アランさんが紹介された。アランさんの「故郷の人達が来るのは嬉しくもあるけれど、政治的に利用されるのはかわいそうだと思いました。」というコメントや、日下部記者の「あぁ言った競技会で応援するときに事前に注意事項みたいなことはあるんですか？」という質問に対する、キム・アラン「外部との接触には特に気をつけるよう教育されます。ホテルには他の国の人達もいましたが彼らとの接触は避けます常に保衛員がついてきますので」、「常にわからないように監視しています。私達が外国に公演に行くときも学生が 25 人だったら先生も 25 人、そこに保衛員が 10 人位ついてきます。今回の応援団の女性の中にも保衛員が入り込んでいるかもしれません。」というコメント、また、アランさんは 9 歳の時、フランスでの公演で初めて海外に行ったが、出発前の一ヶ月間北朝鮮である講習を受けたことや、「先生たちが一ヶ月間観光をさせてくれます、そこで北朝鮮はこんなに暮らしやすくこんなに良い国だと吹き込むわけです、でも外国に行ったら全部違うじゃないですか。トイレに行ったら石鹸が出てくる、お湯が出てくる手も乾かせる、北朝鮮では想像ができませんでした。」という外国で感じた衝撃を改めて振り返ったコメントが紹介された。他方で、「滞在中は常に監視されていたため海外を羨むようなことは口に出来ず、北朝鮮に帰ってからは見聞きしたことを口外しないという誓約書にサインさせられたという。」とキム・アランさんのころの応援団や芸術団に敷かれていた情報統制についても説明されていた。

イ・スンボク事件については、9 歳だったイ・スンボク少年が北朝鮮のゲリラに向かって「僕は共産党が嫌いです」と言ったため口を裂かれ殺害されたと伝えられている事件であること、軍事政権下で起きたこの事件は長く反共教育の材料とされてきたこと、韓国ではかつてイ・スンボク少年のことを道徳の授業で必ず教えていたためある程度の年齢以上の人はみんなイ・スンボク少年のことを知っていること、反共のシンボルとしてのイ・スンボク少年の話は道徳の教科書からは消えたがイ・スンボク少年の生家や学校には今も多くの子供達が見学に訪れることが説明された。

平和のダムについては、ソウルオリンピックを 2 年後に控えた 1986 年に韓国政府が「北朝鮮がソウルオリンピックを妨害するためクムガンサンダムを意図的に崩壊させ韓国側に大量の水を流そうと計画している」、と発表し、「北朝鮮の水攻撃が実行されれば当時韓国で最も背の高かったロクサンビルは半分の高さまで水に浸かり国会議事堂は完全に水に浸かる」と説明していたこと、こうした発表を受け多くの人が北朝鮮への怒りをつのらせ各地で大規模な抗議集会が行われたこと、北朝鮮のクムガンサンダムから流れてくる大量の水をこのダムでせき止めるための平和のダムの建設資金を賄うため韓国政府は民間からの寄付を呼びかけ多くの国民が列を作って募金したことが説明された、また、その後に北朝鮮による水攻撃の脅威は韓国政府によって誇張されたものとわかったこと、それでも平和のダムは 2002 年からの追加工事でさらに高さを増し老朽化したクムガンサンダムの決壊などに備えていることについても説明された。

今後の南北関係について、韓国の軍事政権時代に KCIA 中央情報部で北朝鮮担当の局長なども歴任し、統一相も務めた康仁徳氏へのインタビューでは「僕はオリンピックが終わった後北の方では南の政情に対してこれぐらい南が願っている南北対話に応じたんじゃないか、平昌オリンピックも成功的にすすめることができるような環境を僕達が作ってやったんじゃないか、恩返しを願うですよ」、「僕の妹まで送ったじゃないか、ということです

よ。だからドラマティックな結果をもたらしたのは確かですね、それを持って韓国に対して圧力をかけるような結果が出たということですね。開城工業団地とかねクンガンサン観光とかね、できるでしょう、人道的支援も何千万ドル送ることができるでしょうか。もしそれで送った場合は中国ロシアなんかは、いちばん重要な国家があのように期待支援しているのになぜ僕達に圧力をかけようというのか、反発するでしょうよ、アメリカの立場どうなりますか」というコメントが紹介されるとともに、「康仁徳氏は 3 月下旬以降米韓合同演習が再開されれば北朝鮮は裏切られたとして韓国を激しく非難してくるだろうと予想する。北朝鮮のオリンピック参加で韓国はこれまでよりも苦しい立場に追い込まれたというのだ。」というナレーションに対して康仁徳元統一相が「ドラマティックな結果をもたらしたとは思いますけれども、それで問題解決の道を探ることがでてくるだろうか、できないと思いますよ。」というコメントが紹介された。康仁徳元統一相は日本語で受け答えしていたが、ややなまりがあり聞き取りにくい部分があった、ここについてはテロップを表示したほうが親切ではなかっただろうか。

南北の軍事境界線の板門店については、現場で日下部記者が「何度来てもですね、この板門店の張り詰めた空気に身が引き締まるような思いがします。平昌とは全く違う空気がここには流れています。今日はですね北朝鮮側の兵士の姿は見受けられません。11 月にですね北側の兵士がですね軍事境界線を越えて銃撃戦になった場所、そこは私のたっている場所から 100 メートルも離れていない場所です。平昌オリンピックを巡ってはですね、韓国は北側のペースに巻き込まれているあるいは微笑み外交に騙されていると言った指摘がありますけれども現在、いまこの現在もですね軍事境界線を挟んでですね、南北百万もの正規軍が睨み合っている現実を前にですね、そうした指摘はあまりに一面的、表面的ではないかという感じさえします。」というコメントしていたシーンが紹介された。

VTR を受けてのスタジオで繰り広げられたやり取りについては以下に朱記する。

膳場貴子「オリンピックをめぐる南北それぞれの立場からの動き今見ましたけれどもあの現地に行ってみて初めて分かる特有の空気みたいなものってありました？」
日下部正樹「当たり前かもしれないけれども改めてね、南北問題っていうのは民族の問題なんだなというのを感じたんですね、韓国にとって朝鮮半島の情勢っていうのは外交安保の問題であるのと同時に民族問題でもある、これがアメリカや日本と全く違うところですよね。なんというか愛憎、愛と憎しみの振幅が非常に激しいんですよね。あの激しく罵り合ってたと思うとですね、何かの拍子に手を握ってたりするということでですね、今回の五輪についてですね、あれよあれよと物事が進んでいってしまってムンジェイン大統領はもう融和路線になんか前のめりになりすぎているんじゃないかって第三者的にはそんな心配もするんですけれども韓国で保守派の人たちや脱北者の人でさえ南北というのはずっと対立と対話のずっと繰り返しだったのだからムン大統領もそのあたりのことは分かっているんじゃないか、というようなことは言っていましたね。」
金平茂紀「オリンピックね、今後の朝鮮半島の情勢に大きな影響を与えると思うんですけれども、南北首脳会談の実現の可能性も含めてですね、今後何がどういうふうに起こることを予想されますか？」
日下部正樹「あの、平昌のパラリンピックこれが 3 月 18 日で終わります。その後ですね例年行われている米韓の軍事演習ですね、これがどうなるか。金正恩委員長はですね、オリンピックで韓国に歌詞を作ったという思いがあるから演習があるからこれは裏切りだ、と。一方でですね、今回妹のヨジョン氏を派遣した。これは相当制裁がきつくてね、韓国に頼らざるをえないんじゃないかというとこで見方が分かれてね、ただ現在の状況からするとアメリカの思惑もあって、相当首脳会談の実現難しいのかなという感じがします。」

今回の報道では特集ということで 1364 秒という枠の中で、韓国の現地の様子や、韓国人の様々な受け取り方

を取り上げることで韓国内での意見の対立について、放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点で高く評価できるものだったといえる。

他方で、スタジオでの金平キャスターの「平昌オリンピックで様々な素晴らしいドラマが生まれています。そこから何を感じ取るかは勿論個々人の自由ですが、微笑み外交に惑わされるなとだけしか言えないとしたら、あまりにも一面的ではないかと思ってしまいます。オリンピックと南北朝鮮、特集でもお伝えします。」という特集の紹介や、VTR 内での日下部記者の「平昌オリンピックを巡ってはですね、韓国は北側のペースに巻き込まれているあるいは微笑み外交に騙されていると言った指摘がありますけれども現在、いまこの現在もですね軍事境界線を挟んでですね、南北百万もの正規軍が睨み合っている現実を前にですね、そうした指摘はあまりに一面的、表面的ではないかという感じさえします。」というコメントなどに見られる「ほほえみ外交に惑わされるな」というのは一面的だという見解であるが、今回の VTR では「ほほえみ外交に惑わされるな」という指摘を行っている人やそうした指摘を紹介するシーンは皆無だった。「ほほえみ外交に惑わされるな」という指摘を一面的と断じるとしても、そのためには「ほほえみ外交に惑わされるな」という指摘がどのような形あるいは文脈の上でなされたものなのかも紹介しなければフェアな報道とはいえないだろう。そうした意味で放送法第四条一項二号「政治的に公平であること。」という点では抵触する可能性のあるものだった。また、日下部記者はスタジオで「南北問題っていうのは民族の問題なんだなというのを感じたんですね、韓国にとって朝鮮半島の情勢っていうのは外交安保の問題であるのと同時に民族問題でもある、これがアメリカや日本と全く違うところですよね。なんというか愛憎、愛と憎しみの振幅が非常に激しいんですよね。」と朝鮮半島問題への態度について日米と比較しての韓国の特殊性について言及する一方で、「今回の五輪についてですね、あれよあれよと物事が進んでいってしまってムンジェイン大統領はもう融和路線になんか前のめりになりすぎているんじゃないかって第三者的にはそんな心配もするんですけれども韓国で保守派の人たちや脱北者の人でさえ南北というのはずっと対立と対話のずっと繰り返しだったのだからムン大統領もそのあたりのことは分かっているんじゃないか、というようなことは言っていましたね。」とも言っているが、韓国内で北朝鮮に対して警戒的な人たちとして「保守派」と「脱北者」を並べている点に違和感を覚えた。朝鮮半島問題への態度について日米にはない特殊性が韓国に見られる以上、韓国内の「保守派」というものも、特殊韓国的な論点ないし文脈における「保守派」であって、日本での論点や文脈での「保守派」あるいはそうしたものから想起される「保守派」の一般的なイメージと「韓国で保守派」というのは異なっている可能性が相当程度合理的に見込まれるのではないだろうか。そうした中で「韓国での保守派」という立場についての補足説明などなしに一言で片付けてしまうのは、乱暴ではないだろうか。これは放送法第四条第一項三号の「報道は事実をまげないですること」に抵触しているとまではいえないものの、そうした観点から評価すると不十分だったと言わざるをえないだろう。

またこれらは後述するように印象操作に該当する恐れもある。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・【特集】オリンピックと南北関係→結論：印象操作の恐れあり

金平キャスターの「平昌オリンピックで様々な素晴らしいドラマが生まれています。そこから何を感じ取るかは勿論個々人の自由ですが、微笑み外交に惑わされるなとだけしか言えないとしたら、あまりにも一面的ではないかと思ってしまいます。」というコメントや、日下部記者の「平昌オリンピックを巡ってはですね、韓国は北側のペースに巻き込まれているあるいは微笑み外交に騙されていると言った指摘がありますけれども現在、いまこの現在もですね軍事境界線を挟んでですね、南北百万もの正規軍が睨み合っている現実を前にですね、そうした指摘はあまりに一面的、表面的ではないかという感じさえします。」というコメントが「ほほえみ外交に惑わ

されるな」という指摘がどのような形あるいは文脈の上でなされたものなのかの紹介を欠いたまま行われている。これは、視聴者に対して、「ほほえみ外交に惑わされるな」という意見がさも一面的・表面的であるかの如き印象を与えるおそれがあると考えられる。

また、日下部記者が「南北問題っていうのは民族の問題なんだなというのを感じたんですね、韓国にとって朝鮮半島の情勢っていうのは外交安保の問題であるのと同時に民族問題でもある、これがアメリカや日本と全く違うところですよね。」という一方で、「今回の五輪についてですね、あれよあれよと物事が進んでいってしまってムンジェイン大統領はもう融和路線になんか前のめりになりすぎているんじゃないかって第三者的にはそんな心配もするんですけれども韓国で保守派の人たちや脱北者の人でさえ南北というのはずっと対立と対話のずっと繰り返しだったのだからムン大統領もそのあたりのことは分かっているんじゃないか、というようなことは言っていましたね。」とコメントしていた。これも、韓国の保守派がどういった立場あるいは思想信条なのか、それは日本で言う保守派やアメリカの保守派といかなる違いがあるのか、ということへの説明を欠いたまま「保守派」という表現をするのは、「日本の保守派」や「アメリカの保守派」について誤った印象を与えてしまう恐れがあると考えられる。

検証者所感

・銃乱射事件→結論：今回は放送法の見地からの検証対象外

アメリカフロリダ州の高校で十七人が死亡した銃乱射事件でトランプ大統領が現地入りし負傷した生徒らが入院する病院を訪問したこと、計画的な殺人などの容疑でニコラスクルーズ容疑者が訴追されたこと、FBI 連邦捜査局は容疑者に近い人物から先月 5 日容疑者が学校で銃撃に及ぶおそれがあるなどと通報を受けたにも関わらず適切な捜査を行わなかったこと認める声明を発表したこと、フロリダ州の知事が FBI のレイ長官の辞任を求めた他セッションズ司法長官が FBI の捜査のあり方などの見直しを要求したことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 76 秒で、この報道では銃規制については触れられなかったこともあり、検討した結果、特に争点となるような部分は見られなかった。そのため、今回の放送については放送法第四条の見地からの検証の対象とはならないと判断した。

・【特集】オリンピックと南北関係

まず、オープニングでの金平キャスターの「平昌オリンピックで様々な素晴らしいドラマが生まれています。そこから何を感じ取るかは勿論個々人の自由ですが、微笑み外交に惑わされるなとだけしか言えないとしたら、あまりにも一面的ではないかと思ってしまいます。オリンピックと南北朝鮮、特集でもお伝えします。」というコメントの意味がわからなかった。「平昌オリンピックで様々な素晴らしいドラマが生まれています」というのはそのとおりである。今回の放送でも男子フィギュアスケートの羽生結弦選手の金メダルを獲得した演技や宇野昌磨選手の銀メダルを獲得した演技は素晴らしいドラマであるだろうし、とりわけ選手の故郷の人々にとっては感動もひとしおだっただろう。また、羽生結弦選手については、右足首の怪我から復帰しての金メダル獲得という経緯もドラマであるだろう。そうしたドラマへのコメントとしてはやはり健闘した選手へのエールや感謝などであると思うが、そうしたドラマから「微笑み外交に惑わされるな」というコメントがどのように導かれるのか、よくわからなかった。

しかし、VTR で以下に朱記したようなメインスタジアム近くの店仕舞い後の食堂で開会式のテレビを見ている様子

ナレーション「統一旗を先頭に南北の選手が合同入場すると。」
男性「コリアという名前で入場するんですね。」
日下部記者「あーきたきた、コリア、いかがですかこの南北の入場を見て。」
男性「政治的な利用はしてほしくないです純粋にスポーツとして。」
女性「南北の政治的な問題ではなく、スポーツを通じて一つになった国を見てほしいです、コリアとして。」

以下に朱記したような康仁徳元統一相へのインタビューのシーン

康仁徳(元統一相)「僕はオリンピックが終わった後北の方では南の政情に対してこれぐらい南が願っている南北対話に応じたんじゃないか、平昌オリンピックも成功的にすすめることができるような環境を僕達が作ってやったんじゃないか、恩返しを願うですよ。」
日下部記者「金正恩は韓国に大きな貸しをオリンピックで作ったと。」
康仁徳「僕の妹まで送ったじゃないか、ということですよ。だからドラマティックな結果をもたらしたのは確かですね、それを持って韓国に対して圧力をかけるような結果が出たということですね。」

というシーンを見て、なるほど韓国の人たちにとっては南北合同チームや平昌オリンピックへの北朝鮮のチームの参加によっても「素晴らしいドラマ」が生まれているのだ、と得心がいった。

金平キャスターがこれから流す VTR のこうしたシーンを念頭に置きつつ「平昌オリンピックで様々な素晴らしいドラマが生まれています。」と言っているのであれば、それに続く「そこから何を感じ取るかは勿論個々人の自由ですが、微笑み外交に惑わされるなとだけしか言えないとしたら、あまりにも一面的ではないかと思ってしまいます。」というコメントも意味が通るものである。

しかし VTR の後で日下部記者がスタジオで「当たり前かもしれないけれども改めてね、南北問題っていうのは民族の問題なんだなというのを感じたんですね、韓国にとって朝鮮半島の情勢っていうのは外交安保の問題であるのと同時に民族問題でもある、これがアメリカや日本と全く違うところですよね。なんというか愛憎、愛と憎しみの振幅が非常に激しいんですよね。」とコメントしているように、これが「素晴らしいドラマ」になるのは「民族問題」として認識している韓国の人たち特有の感覚なのであって、南北融和ムードを指して「素晴らしいドラマ」と言われても韓国や北朝鮮の人以外にはあまりピンとこないのではないだろうか。

また、イ・スンボク事件の現場付近になお残る反共・反北朝鮮の空気、北朝鮮の水攻撃に備えるために作られた平和のダム、康仁徳元統一相インタビュー、依然として軍事的緊張のある板門店の様子などを取り上げることで「微笑み外交に惑わされるな」という意見を「一面的・表面的ではないだろうか」という見解を番組構成としても出しているのは、おそらく南北融和ムードに対する日本政府の対応やコメントに対する批判なのだろうが、その批判も理解し難かった。

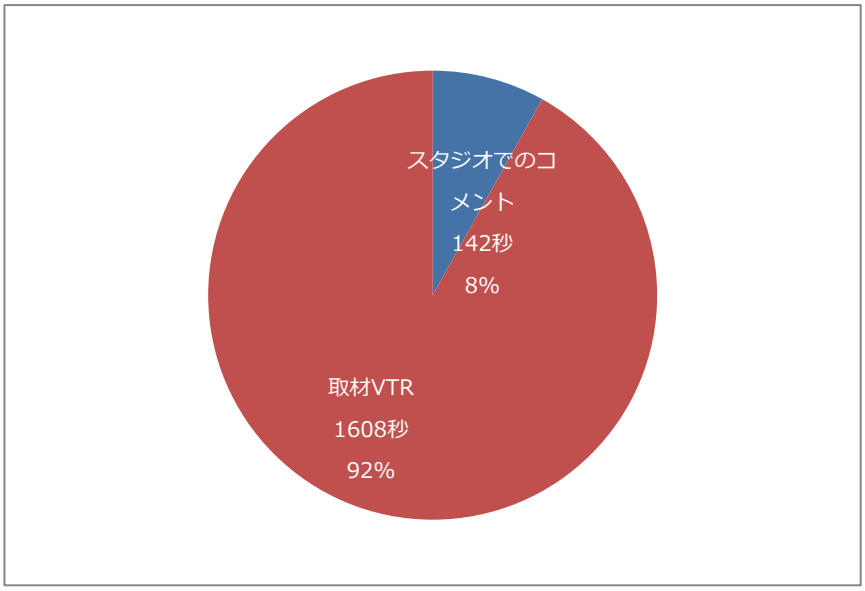
イ・スンボク事件現場付近の空気や康仁徳元統一相の見解はともかくとして、北朝鮮の平和のダムや板門店の軍事境界線で南北の兵士が対峙している状況などは、まさしく緊張を孕んだ南北関係が「外形」を伴って現れている場所である。他方で、平昌周辺での南北融和ムードもまた「外形」を伴って現れているものである。また、北朝鮮はともかくとして韓国は曲がりなりにも選挙の行われる民主国家である。そうした中で、平昌の融和ムードというのが仮に他の地域にも見られるのであれば、それは韓国の外交政策にも大きな影響を与えるものである。しかしそうした有権者の融和ムードがあるとしても、現実には平和のダムや板門店では依然として緊張があり、そうした緊張はオリンピックの融和ムードのためか韓国内であまり報じられていなかったりあるいは有権者の意

識から薄れていたりするという懸念があるとすれば、そうした中で「微笑み外交に惑わされるな」という指摘に対して「一面的・表面的」という批判は全く当たらないだろう。それどころか、「微笑み外交に惑わされるな」という指摘は平和のダムや板門店の軍事的緊張と平昌周辺での融和ムードや反発などを踏まえた上での「多面的」な指摘であるとすら言えるだろう。

また、韓国にとって北朝鮮問題が外交安全保障問題であると同時に民族問題でもあるのと同様に、拉致被害に遭っている日本にとっての北朝鮮問題は外交安全保障問題であると同時に拉致という人権問題でもあるのだから、北朝鮮が韓国に見せる「微笑み」にしても韓国に比べて日本政府はより懐疑的に受け取り「微笑み外交に惑わされるな」と指摘するのは、それほどおかしなことでもなければ「一面的・表面的」なわけでもないだろう。

・【特集】P3C 機長を目指した一般大学卒業生の 5 年間を追跡→結論：放送法の見地からの検証対象外

尖閣諸島や北朝鮮の問題で東シナ海の緊張が続く中日本周辺海域を監視しているのが海上自衛隊の P3C 対潜哨戒機について、P3C の機長を目指した一般大学の卒業生が第一線に向かうまでの 5 年間を取材した VTR が流された後に、スタジオでの論評が行われていた。このトピックに当てられた時間は 1750 秒で、その中での VTR とスタジオの時間配分および比率は以下の通りであった。



なお、スタジオで繰り広げられたやり取りを以下に朱記する。

膳場貴子「取材した巡田記者です、自衛隊の幹部になるための訓練、アレ一般大学の卒業生にとってはかなりきつい集団生活だと思うんですけれども適応するの大変じゃないですか。」
巡田忠彦「大変ですよね、ま多分、我々は絶対適応できないですね。これはですね、ちょっと見てほしいんですけれども、去年 4 月の入学時はこういう人数でした。かっこは女性なんですけれども、今現在どうなっているかというと一般大生のですね、女性は特に 2 割が減っていますよね、一般大生が 114 人。全部で 16 人が減ったと。防大はやっぱり女性は三人、やっぱり結構強いですよね、そのままですよね。」
日下部正樹「それにしてもなんで一般大卒がこれだけ増えているんですか？」
巡田忠彦「明確な言葉はないんですかれども自分たちが大学でやった専門性を活かすというね、だから例えば自衛隊に入ってイージス艦とか潜水艦とか暗号をやりたいとか、電波を研究したいとかそういう人が多いですね、最初から入ったときから国防とかなんとかって言うあれではないですね、やっぱり専門性、就職の一つとしてい

ますね。」
金平茂紀「巡田さんとは三年前一緒に取材しましたけど自衛隊という組織は憲法改正問題でも色んな意味で今渦中にありますよね、そういう中で巡田さんがその自衛隊員に直接取材してみて何か感じたことはありましたか？」
巡田忠彦「あの、よく彼らが若い人がいうのは防大一期生ですね、50 以上前の人たちに対して、卒業のときに吉田元総理がですね、君たち自衛隊員が表に出ない、まぁいわば日陰者であるときのほうが日本は幸せなんだと、まぁ言わずもがなのことなんですね。それ、だけどそれをみんな肝に銘じている、表面にあまり自分たちが出過ぎるというのはあまりいい時代ではないですよ、というのはちゃんと自覚していますね。」

金平キャスターが、憲法改正についてスタジオで言及していたが、これに対して巡田記者が上手く回避しているかのような回答だったため、特に憲法改正問題についてスタジオで議論になるということはなかった。また VTR も一般大学出身の幹部候補学校生への取材を中心としたものだったため、今回は放送法第四条の見地からの検証の対象とはならないと判断した。しかし、金平キャスターの憲法改正についての言及に巡田記者が答えていたら、スタジオ内で極めて一方的な議論あるいは VTR とはかけ離れた議論が行われた可能性はあり、そうなると放送法第四条に抵触するシーンや印象操作の疑いのあるシーンが出てきたかもしれない。